

絵の配置を考える

2回目の今回は、カベ演出のツールとしてオーソドックスな「絵」の飾り方のバランスについて考えます。

部屋全体をトータルにコーディネートする場合、カベの使い方はセンスアップの重要なポイントになってきます。前号では部屋に家具を配置する場合の大きさのバランス、「スケールバランス」についての基本をご紹介しましたが、

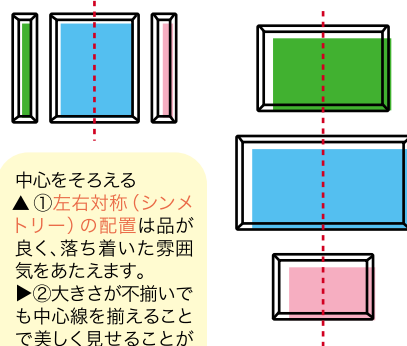
素敵すまいる館

カベを生かしてセンスアップ

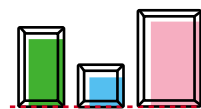
部屋全体を見渡したときに、なんとなくもの足りない感じがしたり、インテリアに締まりがないと感じたりすることがあります。そんなときに工夫したいのがカベづかい。絵画やポスター、イラストや写真、テキスタイル（編み物や織物の生地）などのアートフレームをセンス良く配置することで、コーディネート の完成度が驚くほどアップします。選ぶ際にはアートや額装がインテリアのテイストにあうかどうか、部屋の広さや家具との「スケールバランス」がとれるかどうかに注意することが大切。また、フレームを掛ける高さもセンスの良し悪しを左右します。一般的にはフレームの中心（複数点なら全体の中心）を人の視線の高さ（160センチくらい）かやや下にするると落ち着いた雰囲気になります。

美しい配置の法則

人間の目は無意識にリズムを追っているといわれます。同じ大きさ、テイストの絵を等間隔に配置するなど、“見た目 に連続して感じられるようなデザイン処理”を人は美しく、また心地良く感じます。窓の配置や家具のバランスが悪いなど、部屋の統一感に欠ける場合には、数枚の絵を上端、または下端を揃えて並べてみましょう。インテリアが引き締まり、格段にセンスがあがります。そのほか2点以上のアートを配置する場合には、中心線や上部・下部の線を揃えるなど、ラインを意識して配置するのが美しく見せるコツです。複数点のアートをグルーピングする場合はくれぐれも周囲の家具や雑貨とのバランスを考え、雑然としないようご注意ください。

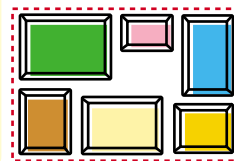


中心をそろえる
▲①左右対称（シンメトリー）の配置は品が良く、落ち着いた雰囲気を与えます。
▶②大きさが不揃いでも中心線を揃えることで美しく見せることができます。



◀上下（左右）のラインをあわせる。
フレームの上か下のライン、または左右どちらかのラインに揃えることで統一感が生まれます。

▶上下（左右）の横幅をそろえる。
複数のアートを並べる場合、上下もしくは左右の幅を決めてその中で配置すると全体をすっきりまとめることができます。



▼周期的な繰り返し（等間隔に並べる、色を繰り返すなど）や系統的な進行（小さなものから大きなものへ順に並べるなど）という一定のリズムをもたせながら配置をすると統一感が生まれ、インテリアが引き締まります。

